

onaishigeo



201209-01

手を、
ふりほどいた

yakusoku ha umareru maeni

onaishigeo

自分じゃなんにも決められない。いつでも姉が決めてくれたから。何を食べる、何をかう、どの色？ 何を観る。わたしは何も考えなくていい。だから生きるのは楽だった。損得勘定も利害関係も計算しなくていい。困ったらただうつむいて黙り込む。そうすれば、姉が答えを教えた。

ときには天地を揺るがすほどの難題が襲ってくる。そんなときもわたしは迷わず姉の部屋のドアをノックする。

(ねえわたし、生きてていい？ 死んだ方がいい？)

ドキドキしながらドアの前で答えを待つ。そうすれば必ずドアは静かに開いた。だからわたしは今も生きている。

姉はなんでも知っていた。この世のことわりと生き抜くための処世術。知らないことは姉に聞けばいい、自分で調べるより早いし正しい。わたしにとっての正義とか公平とかは即ち姉。敵が現れても味方ができても、姉にどうすべきかを尋ねれば全てが上手くいった。

生きる限り、天地を揺るがすほどの難題は何度も襲ってきた。しかしどんな苦境に立たされても、わたしはその場で判断しない。耳を塞いで逃げて帰って、そしてとにかく姉の部屋のドアを叩く。

。

(ねえわたし、生きてていい？ 死んだ方がいい？)

あるとき、長いこと返事が返って来ないので、不思議に思って静かにドアを開けてみた。姉は学習机に向かって声をかみ殺して泣いていた。ひどく混乱して、そっとドアを閉めて再び待った。やがていつもの姉がドアから現れた。

あれは夢だったのだろうか？

その姉が死んだ。サイコロ一つを残して。

サイコロは主を失った姉の部屋に置いてあった。わたし宛の使い方を書いた紙切れと一緒に。困ったらサイコロを振ること。1が出たら進め、2が出たら戻れ、3は右、4は左、5はOK、6はNO。

あまりに単純でわたしは呆然とした。たったこれだけの選択肢でこれから一人で生きていけと言うのか。この荒海を。欺瞞と敵意に満ちた世の中を。ほら、さっそくわたしは迷っている。自分は姉の指示に従うべきなのか。

心の中で念じても口に出しても返事は返ってこない。諦めて、わたしはサイコロを転がしてみた。

【6】

NOってどういう意味？ 賽の目に従っちゃだめってこと？
不安になってもう一度サイコロを転がす。

【3】

右ってなあに？ 右を見ても何も無いよ。
わたしは混乱して何度も何度もサイコロを転がした。

【4】 【5】 【1】 【6】 【2】 【1】

賽の目に意味はない。姉の魂がサイコロに宿るはずがない。私は深く絶望し、初めて姉を憎んだ。

いや、初めてではない。わたしはずっと姉を憎んでいたのだ。何でも決めてしまう姉、何でも知っている姉。姉が存在しなければ、わたしは自律し主体的な思考や行動をとっていたかもしれない。社会適応力やコミュニケーション・スキルや場の空気の読み方とか、一人で生きていくために必要なあれこれを獲得できていたかもしれない。たぶんそれらを獲得するには多くの慟哭や苦痛を伴ったであろうが、突然置いてきぼりを喰らうと知っていたなら、わたしにだって耐えられたかもしれないのに。

それは愛だったのか。しかしこれが愛であるなら「甘やかし」と何が異なるのか。そして本当に私を愛していたのなら、勝手に先に行かないで妹と一緒に行くべきだろう、それが無理ならせめてこの憐れな妹を先に。

しかし最後にもう一度だけ姉に答えを請おう。途方に暮れていたわたしは、何があっても従うと決め、もう一度だけサイコロを転がした。

【4】

笑いがこみ上げてきた。これがたぶん本物の現実。発狂したように泣き笑いながらわたしは立ち上がり、目をつぶってくるっと左を向いて、勢いよく歩み出した。何かにぶつかったらまたサイコロを振ればいい。つまりいて転んだらそこでサイコロを振ればいい。

しかし現実はそれほど格好の良いものではなく、わたしは数歩進んだだけで姉の部屋のドアに激突した。

(いいよ、開けるかどうかくらい、自分で決められる)

手を、ふりほどいた

<http://p.booklog.jp/book/56490>

2012/09/06

著者 : onaishigeo

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/onai/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/56490>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/56490>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパバー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社ブックログ